

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：東京医科大学（総括責任者：鈴木 衛）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

既存の「医師・医学生支援センター」を「医師・学生・研究者支援センター」に変更し、女性研究者支援に特化した部門を置き、相談窓口として、研究支援を担当する常勤職員を配置する。また、研究環境・勤務形態の改善、研究者同士の交流を図るための場の提供、ホームページ等による啓発活動を行う。

(2) 研究を支援する者の配置計画

育児や介護等、ライフイベント期間中の女性研究者をサポートする者として、大学院生やポストドクターを研究補助者として雇用し、必要に応じて、人材派遣による人材確保を図る。また、先輩の女性研究者に研究指導者/相談員として参画してもらうとともに、支援終了後も研究者のキャリア形成に携わる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長のリーダーシップの下、女性教授をセンター長とする「医師・学生・研究者支援センター」を実施母体とし、機関の現状や、女性研究者のニーズを的確に把握し、実効性の高い取組を展開して、着実に成果を上げた。また、女性限定の上位職学外公募や女性教員の上位職内部昇任促進策といったポジティブ・アクションの実施により、女性教員、特に女性上位職教員を積極的に採用、登用したことは評価できる。さらに、他機関と連携して行った保育支援（ファミリーサポートプログラムの運用）、短時間正規雇用制度（研究助教制度）の創設により、女性研究者の研究の場への復帰支援を行ったことも評価できる。

- ・ **目標達成度**：ポジティブ・アクション等の実施により、女性教員の採用を積極的に進め、目標を大幅に上回る女性教員を採用したことは評価できる。一方、女性研究者の在籍者数・在籍割合、科学研究費補助金の応募者に占める女性割合や採択者に占める女性割合に係る目標は達成に至らなかったが、一定の成果を上げたことは評価できる。
- ・ **取組**：女性研究者のニーズを踏まえ、他機関と連携して行った保育支援（ファミリーサポートプログラムの運用）、短時間正規雇用制度（研究助教制度）の創設、科学研究費補助金の不採択

者への支援を目的とした「科研費フォローアップ助成金」における女性教員枠の設定、女性限定の上位職学外公募や、女性教員の上位職内部昇任促進策といった特色ある取組を行ったことは評価できる。

- **取組の成果**：女性教員の採用や上位職への登用、科学研究費補助金の助成採択者数の増加が進んだことは評価できる。また、教員アンケートの調査結果から、男女ともに本事業の取組を高く評価していることが明らかにされており、機関内の意識改革が着実に進んだものと評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、学長直下の組織として設置した「医師・学生・研究者支援センター」が主導し、4つのキャンパス全てに室員とオブザーバーを配置し、機関全体として事業を展開する体制を整備したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：中・長期計画に女性研究者支援の継続を記載し、機関全体で女性活躍促進に取り組むため、「ダイバーシティ推進本部」を新たに設置することを決定しており、評価できる。また、実施期間終了後も、事業実施のための十分な自主経費を措置しており、今後の取組の継続や発展が期待できる。